

2007年4月11日
新日本製鐵株式会社

中国におけるCDQ（コークス乾式消火設備）CDM事業の国連承認について

新日本製鐵株式会社（代表者：三村明夫、以下新日鉄）が、中国河北省で進めているCDQ^(*1)（コークス乾式消火設備；製鉄プロセスの代表的な省エネルギー技術）に基づくCDM事業^(*2)（以下、本事業）が、4月6日付けで国連のCDM理事会により正式承認されました。

本事業については、昨年10月の日中両国政府の承認を経て、本年2月に同理事会に承認申請を行っていたものです。

本事業は、中国首都鋼鉄の関連会社である遷安中化煤化工有限責任公司（遷安コークス）にCDQを設置し、現在大気中に放散されているコークス製造工程の廃熱を利用して年間平均約25MWの発電を行うもので、2007年より年間約21万トンのCO₂排出削減効果が見込まれます。

新日鉄グループは、地球温暖化問題に関して、2010年度において1990年度対比エネルギー消費量10%削減を目標とする自主行動計画を策定し、CO₂排出抑制に努めています。その結果、2005年度は、粗鋼生産量が増加する中で、1990年度対比9.6%のCO₂排出削減となりました。

こうした製造工程内での省エネ努力を進める一方で、新日鉄グループは技術力をベースに京都メカニズムを活用し、地球的規模でのCO₂削減に向けて様々な検討を進めています。

本事業は、こうした地球温暖化対策の一環として進めてきたもので、CDQを用いたCDM事業としては世界初のもので、当社のCDM事業としては、昨年（2006年）3月の、中国でのフロン処理CDM事業に次ぐ、2件目の国連正式承認案件となります。

新日鉄グループは、今後とも長期的かつ国際的な観点から、京都メカニズムを活用して、世界最高レベルの省エネルギー、環境対策技術の移転を通じた地球規模でのCO₂排出削減に貢献していきたいと考えています。

（*1）CDQ（Coke Dry Quenching；コークス乾式消火設備）

製鉄プロセスでは、コークス炉で約1050℃に乾留した赤熱コークスを冷却して輸送し、鉄鉱石とともに原料として高炉に装入して銑鉄を製造します。コークスの冷却に関し、従来の、散水して消火する方式（=湿式消火方式）では、大量の水を使用する、エネルギー（廃熱）回収ができない、消火塔から放散される白煙中にダストやCO、CO₂が含有されているなど環境上の問題点があります。CDQは、水ではなく不活性ガスで消火し、赤熱コークスの顕熱を回収して発電することにより二酸化炭素（CO₂）排出量の削減を可能とする最先端の省エネルギー・環境保全設備です。

（*2）CDM（Clean Development Mechanism；クリーン開発メカニズム）

発展途上国内で行なわれる温室効果ガス削減プロジェクトに対して、先進国が技術や資金の援助を行い、その結果生じた削減量に対してクレジット（証書）が発行され、先進国の削減としてカウントできる制度。

（本件に対する問い合わせ先）

新日本製鐵株式会社 広報センター 中島（なかしま） TEL 03-3275-5023
環境部 篠上（しのがみ） TEL 03-3275-5145

以上